

フランス語における「他動性」 —言語データ提供—

秋廣 尚恵

1. はじめに

「他動性」へのアンケートの項目別にフランス語の言語データを提供する。以下、2.1から2.20まで、各項目別にアンケートの回答を記す。アンケートの回答にあたっては、筆者が日本語から翻訳したものを、ネイティブスピーカ¹に適切かどうか判断してもらった。

2. 項目別言語データ

2.1. 直接影響・変化

- | | |
|-------------------------------|--|
| a. 彼はそのハエを殺した. | Il a tué cette mouche.
彼 殺す複合過去 この ハエ |
| b. 彼はその箱を壊した. | Il a cassé cette boîte
彼 壊す複合過去 この はこ |
| c. 彼はそのスープを温めた. | Il a fait chauffer cette soupe.
彼 使役複合過去 温まる この スープ |
| d. 彼はそのハエを殺したが、死ななかった。(発話不可能) | |

動詞 *chauffer* は態の変換を伴わず、自動詞にも他動詞にも用いることが出来る動詞である：例えば、*La maison chauffe* 家が温まる（自動詞用法）と *Je chauffe la maison* 私は家を暖房する（他動詞用法）。従って、「・・・が～を温める」という事態を表すのに、「他動詞構文の *chauffer*」と「自動詞 *chauffer* の使役構文 *faire chauffer*」が競合していると考えられる。コーパスの例を見ると、直接目的語のタイプによって、分布が変わる。大まかに言って、他動詞構文（主語+*chauffer*+目的語）を取るのは、直接目的語が「人」、「家」などの「場所」、や、「もの」の場合であり、それに対して、「料理」や「飲み物」などを温める場合には、自動詞の *chauffer* を使役形で用いて、*faire chauffer*（使役動詞 *faire* +自動詞 *chauffer*）とするのが一般的だ。他動詞構文の形（*chauffer de l'eau*）で現れた例はわずか数例にとどまる。ちなみに、フランス語では、「料理」のレシピなどのテキストでは、調理に

¹ エクス・マルセイユ大学・言語学科博士課程 Valérie Clerc-Collec 氏に協力をお願いした。

よる状態変化を示す動詞は、特殊な振る舞いを見せるようだ。chauffer に限らず、他の動詞 (cuire「焼く・焼ける」など) も、他動詞構文よりは、自動詞の使役構文を圧倒的に好む。

尚、日本語で観察される「殺したのに死ななかった」「壊したのに壊れなかった」「沸かしたのに沸かなかった」のような例は観察されなかった。そう表現したい場合には、準助動詞的な役割を果たす essayer de... (・・・してみる) や arriver à ... (・・・するに至る) を併用する必要がある。(例えば, J'ai essayé de casser la branche, mais je n'y arrive pas. 「枝を折ろうとしてみたが、折れなかった。」) したがって、a, b, c の動詞については、結果の状態への到達を動詞自体が含意していると考えることが出来る²。

2.2. 直接影響・無変化

a. 彼はそのボールを蹴った。

Il a donné un coup de pied dans le ballon.

彼 与える複合過去 不定冠詞単数 打撃 前置詞 (の) 足 中に 定冠詞単数 ボール

b. 彼女は彼の足を蹴った。

Elle lui a donné un coup de pied à la jambe.

彼女 彼に 与える複合過去 不定冠詞単数 打撃 前置詞 (の) 足 前置詞 (に) 定冠詞単数 足

c. 彼はその人にぶつかった (故意に)。

Il a fait exprès de bousculer cette personne.

彼 わざとする複合過去 前置詞 de ぶつかる 指示詞その 人

d. 彼はその人にぶつかった (うっかり)。

Il a bousculé cette personne par inattention

彼 ぶつかる複合過去 その 人 前置詞 (によって) 不注意

動詞 bousculer 「ぶつかる」という動詞は、「意図的」であっても、「非意図的」であっても使える動詞である。解釈のレベルでは、「意図的」かどうかを知るには、コンテキストを参照する必要がある。また、「わざと」「うっかり」という意味を明示したいのなら、その都度、il a fait exprès de /par inattention のような要素を入れることが出来るが、義務的な

² 結果の状態を含む動詞をフランス語学では一般に *verbes téliques* (telic verbs) と呼ぶ。「En + 期間 (動作の完了にかかる期間を表す)」と共起するかどうかというテストによって見分けることが出来る。ここで問題になっているのは、それらのテストに合致するものの中でも、とりわけ状態の変化を表す動詞で、なおかつ結果の状態を含むものである。

要素ではない。また、「ぶつかる」という意味では、**heurter** という動詞も用いることが出来る。この2つの動詞の意味や用法には興味深い違いがあるのだが、ここでは紙面の都合上議論しない。

2.3. 知覚 2A vs. 2B

a. あそこに人が数人見える。

Je vois quelques personnes là-bas.

私 見る現在 何人かの 人複数 あそこ

b. 彼はその家を見た。

Il a regardé cette maison.

彼 見る複合過去 その 家

c. 誰かが叫んだのが聞こえた

J'ai entendu quelqu'un crier.

私 聞こえる複合過去 誰か 叫ぶ不定詞形

d. 彼はその音を聞いた。

J'ai entendu ce bruit.

私 聞く複合過去 その 音

フランス語では、知覚動詞は 2A も 2B も直接目的語を取る。したがって、それぞれが取る構文や目的語のタイプによっては、両者の間の他動性の高低の違いを知ることは出来ない。ただし、それぞれの動詞によって、目的語との意味的な結びつきが異なる。その違いは、必ずしも英語の 2A と 2B の違いと一致するものではない。例えば、動詞 **voir** と動詞 **regarder** の例を幾つか挙げておく。

①動詞 **voir** 「見える・見る・会う・知る」

1. **Je suis allé voir les films.**

私 行く複合過去 見る 定冠詞複数 映画

映画を見に行った。

ECHENOZ Jean WINTER Geneviève GRITON Pascaline BARTHÉLÉMY Emmanuel, *Dans l'atelier de l'écrivain*, 2000, p. 232

2. Fugitivement, je crois **voir un homme en blanc**.

ぼんやりと 私 思う 見る 不定冠詞 男 前置詞 白

ぼんやりとだが、白衣を着た男が見えるような気がする。

ERNAUX Annie, *L'événement*, 2000, p. 108

3. Il peut **voir combien je suis courageuse**

彼 可能動詞 見る不定詞 どのくらい 私 be 勇気がある

彼は私がどれくらい勇敢か知ることができるだろう。

GARAT Anne-Marie, *Les mal famées*, 2000, p. 18

②動詞 regarder 「(注意して) 見る・探す・ある見地に立って物事を見る」

4. vous n'avez qu'à [中略] **regarder à la télé les comédies des années 70**.

あなた 否定 have 以外 見る 前置詞 定冠 テレビ 定冠 コメディ 前置+定冠詞 年代 70
テレビで70年代のコメディでも見ていればいい。

BEIGBEDER Frédéric, *99 francs*, 2000, p. 49, 7.

5. Il me la donne sans **me regarder**.

彼 私に それを 与える 前置詞 (なしに) 私 見る不定詞

私を見もせず、かれはそれ(請求書)を渡した。

ERNAUX Annie, *La vie extérieure*, 2000, p. 71, 1996

6. Avoir le courage de **regarder les choses en face**

have 定冠詞 勇気 前置詞 見る 定冠詞 物事 前置詞 正面

物事を真正面から見る勇気を持つこと。

ERNAUX Annie, *Se perdre*, 2001, p. 67, 1988, *Jeudi 22*

映画館で映画を見る場合には、voir を使うのに (1)、テレビで映画を見る場合には、regarder を使う (4) といった使い分けがある。また、「人」という目的語を取る場合には、voir を使うと「人影が見える」(2) あるいは、「人に会う」という意味になり、regarder を使うと「人を見る」(5) という意味になる。また、regarder は、「注意して観察する」という意味も持つ (6)。

2.4. 知覚 2A 発見・獲得・生産

a. 彼は (なくした) 鍵を見つけた。

Il a retrouvé la clé qu'il avait perdue.

彼 見つける複合過去 定冠詞単数 かぎ 関係代名詞目的格 彼 なくす大過去

b. 彼は椅子を作った.

Il a fabriqué une chaise.

彼 作る複合過去 不定冠詞単数 椅子

「達成目的語 (effected object)」も直接目的語の形式によって表される.

2.5. 追求

a. 彼はバスを待っている.

Il attend le bus.

彼 待つ 定冠詞 バス

b. 私は彼が来るのを待っていた.

Je l'attendais.

私 彼 待つ半過去

c. 彼は財布を探している.

Il cherche son portefeuille.

彼 探す 彼の 財布

2.6. 知識 1

a. 彼はいろいろなことをよく知っている.

Il connaît bien des choses.

彼 知っている よく 不定冠詞複数 物事

b. 私はあの人を知っている.

Je connais cette personne.

私 知っている あの 人

c. 彼には日本語がわかる.

Il comprend/sait/connait le japonais.

彼 理解する 定冠詞 日本語

フランス語には、「知識の獲得」や「知識（や能力）を持っているという状態」を表す動詞に、*connaître* と *savoir* がある。以下に幾つか例を挙げておく。

①動詞 *connaître*

7. **je connais un éditeur assez fou.**

私 知っている 不定冠詞 編集者 かなり いかれた
かなりいかれた編集者を知っているよ。

BEIGBEDER Frédéric, *99 francs*, 2000, p. 30

8. **Je ne connaissais pas Paris**

私 否定 *ne* 知っている半過去 否定 *pas* パリ
私はパリには行ったことがなかった。

ERNAUX Annie, *L'événement*, 2000, p. 67

②動詞 *savoir*

9. **je ne sais pas être heureux**

私 否定 *ne* 知っている 否定 *pas* *be* 不定詞 幸せな
私は幸福になることを知らない（幸福になるやり方を知らない＝幸福になれない）。

BEIGBEDER Frédéric, *99 francs*, 2000, p. 70

10. **je sais que rien ne changera**

私 知っている 接続詞 *que* 何も 否定 *ne* 変わる
何も変わらないということは分かっている。

BEIGBEDER Frédéric, *99 francs*, 2000, p. 33

11. **Savoir le prix du tableau**

知っている不定詞 定冠詞単数 値段 前置詞+定冠詞 絵画
その絵画の値段を知ること。

GUIBERT Hervé, *Le Mausolée des amants : Journal 1976-1991*, 2001, p. 45

Connaître は名詞句のみを直接目的語として認め、「経験から～を知っている」という意味を持つ。7では、「いかれた編集者に実際にあったことがあり知っている」、8では、「パリに行ってみてパリを知ったこと」を表している。

一方、*savoir* は不定詞句（9）や名詞節（10）などを従える場合が非常に多い。11のように名詞句を直接目的語に取る *savoir* はむしろ少数である。*Savoir* が直接目的語に名詞句を取る場合には、それらの名詞句は、不定詞句か名詞節にパラフレーズすることが出来る。例えば、11の場合には、*Savoir quel est le prix du tableau* というように、*quel* によって導か

れる間接疑問節にパラフレーズすることができる。

Cの「日本語が分かる」という例については、**Il comprend le japonais** とも **il sait le japonais** ということも、**Il connaît le japonais** ということも出来るが、3者には微妙な意味の違いが存在する。**Il comprend le japonais** は「日本語を理解することが出来る」という意味である。しかし、**Il sait le japonais** は、**Il sait parler / comprendre / lire / écrire le japonais**（日本語を話し／理解し／読み／書くことができる）とパラフレーズすることが出来、日本語を言語のスキルとしてマスターしていることを表す。一方、**Il connaît le japonais** といった場合には、過去に聞いたことがあったり、あるいは、日本語についての本を読んだり勉強したり、というように、なんらかの経験によって日本語についての知識を得ていることを言うのであって、実際に日本語が話せるか（耳で聞いて理解できるか）どうかという点はあまり問題にならない。

2.7. 知識 2

a. あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

Vous souvenez-vous de ce que je vous ai dit hier ?

あなた 思い出す代名動詞倒置形 前置詞 (について) こと 関係代名詞 私 あなたに 言う複合過去？

b. 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

J'ai oublié son numéro de téléphone.

私 忘れる複合過去 彼の 番号 前置詞 (の) 電話

2.8. 感情 1

a. 母は子供たちを深く愛していた。

Ma mère a aimé ses enfants du fond du cœur.

私の 母 愛する複合過去 彼女の複数 子供達 前置詞+定冠詞単数 奥 前置詞+定冠詞単数 心

b. 私はバナナが好きだ。

J'aime les bananes.

私 好む 定冠詞複数 バナナ

c. 私はあの人が嫌いだ。

Je déteste cette personne.

私 嫌う あの 人

b については、**plaire** (気に入る) という動詞を使って書き換えが可能である (b')。Plaire は、主語に「感情を引き起こすもの」、そして与格に「感情を感じる人」を取る動詞である。

b'. Les bananes me plaisent.³

定冠詞複数 バナナ 私に 気に入る

バナナは私の気に入る。

また、フランス語には、「感情を引き起こすもの」を主語、「感情を感じる人」を目的語に置く一群の感情動詞がある。その一つである **dégoûter** (嫌悪感を起こさせる) という動詞を使うと、c の例は、

c'. Cette personne me dégoûte.

あの 人 私を 嫌悪感を抱かせる

あの人は私に嫌悪感を抱かせる。

と言い換えることが出来る。

以上に見たように、フランス語の感情動詞には、3つのタイプの構文がある。

①Aimer タイプ：(主語：感情を持つ人) + V + (直接目的語：感情の原因)

②Plaire タイプ：(主語：感情の原因) + V + (与格：à+感情を受ける人)

③Dégoûter タイプ：(主語：感情の原因) + V + (直接目的語：感情を受ける人)

とりわけ、フランス語では、③Dégoûter タイプの動詞の数と語彙的バラエティが多いことが特徴である。また、フランス語においては、以下の例にみるように、直接目的語をテーマ化するために、右方転移した場合、目的語の代名詞によって受けなおさなければならない、という統語規則があるが、

12. **J'ai cassé la boîte.**

私 壊す複合過去 定冠詞単数 はこ

私は箱を壊した。

³ b' の書き換えは統語的には正しいが、ネイティブスピーカに言わせるとあまり自然ではない。その不自然さは意味的、文体的な理由によると考えられる。

(直接目的語の *la boîte* をテーマ化する)

La boîte, je l'ai cassée.

定冠詞単数 はこ、私 代名詞単数目的格 壊す複合過去
箱は、私が壊した。

① *Aimer* タイプは、直接目的語を代名詞によって受けなおさなくても、容易に右方転移させることが出来る数少ない動詞グループの一つである。

13. *J'aime les chocolats.*

私 好む 定冠詞複数 チョコレート
私はチョコレートが好きだ。

(直接目的語の *les chocolats* のテーマ化)

Les chocolats, j'aime⁴.

定冠詞複数 チョコレート、私 好む
チョコレートは 好きだ。

2.9. 感情 2

a. 私は靴が欲しい。

Je voudrais une paire de chaussures.

私 欲しい条件法現在 不定冠詞 対 前置詞 靴

b. 今、彼にはお金が要る。

Il a besoin d'argent maintenant.

彼 必要がある複合過去 前置詞 (の) お金 今

フランス語の *vouloir* は、1 から 3 人称のいずれにも使える動詞である。「欲しい」に匹敵するような形容詞を用いた表現はない。また「必要とする」という意味を表す動詞 *nécessiter* があるのだが、その使用は専門的なテキストや、固い文体に限られる。日常会話では、もっぱら、*avoir besoin de* という熟語を用いる。

⁴ この例は、代名詞 *ça* で受けなおして、*Les chocolats, j'aime ça.* ということも出来る。*Ça* で受けなおすか否かの違いには意味的、文体的にも興味深い違いがあるが、ここでは紙面上、議論しない。

2.10. 感情 3

a. (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている.

Ma mère est en colère parce que mon petit frère lui avait menti.

私の母 be 前置詞 (に) 怒り 接続詞 (なぜなら) 私の 弟 彼女に うそをつく大過去

b. 彼は犬が怖い.

Il a peur des chiens.

彼 have 恐れ 前置詞 (の) +定冠詞複数 犬

例えば b は、先に述べた感情動詞の *dégoûter* タイプを用いることが出来る.

b'. Les chiens l'effraient.

定冠詞複数 犬複数 彼を 怖がらせる

犬が彼を怖がらせていた.

2.11. 関係 1

a. 彼は父親に似ている.

Il ressemble à son père.

彼 似ている 前置詞 (に) 彼の 父親

b. 海水は塩分を含んでいる.

L'eau de mer contient du sel.

定冠詞 水 前置詞 定冠詞 海 含む 部分冠詞 塩

2.12. 関係 2

a. 私の弟は医者だ.

Mon petit frère est médecin.

私の 弟 be 医者

b. 私の弟は医者になった.

Mon petit frère est devenu médecin.

私の 弟 なる複合過去 医者

a は、コピュラ動詞、b は「なる」動詞である。両者の間には共通した統語的な特徴がある。例えば、両者共に、代名詞化した場合、中性代名詞の *le* で受ける。また主語との意

味的な結合関係が強いために、属詞要素である「医者」(médecin) は省略が不可能である。

2.13. 能力 1

a. 彼は車の運転ができる。

Il peut conduire / Il sait conduire.

彼 可能動詞 運転する不定詞 / 彼 知っている 運転する不定詞

b. 彼は泳げる。

Il peut nager / Il sait nager.

彼 可能動詞 泳ぐ不定詞 / 彼 知っている 泳ぐ不定詞

Pouvoir は可能動詞である。先に述べたように、**Savoir** + 不定詞は「何かをする能力があること」を示す。この2つの動詞の違いは、**Pouvoir** が状況によって左右される可能性であるのに対し、**savoir** はその人がマスターしている能力を表すということにある。例えば、

a'. 彼は腕が痛いので、運転が出来ない。

Il ne peut pas conduire parce que son bras lui fait mal.

彼 否定 ne 可能動詞 否定 pas 接続詞 (理由) 彼の 腕 彼に する 痛い

では、本来は車を運転できるのであるが、「腕が痛い」という状況にあるために、一時的に運転できないことを表している。これに対して、**Je ne sais pas conduire.** は「運転する能力をマスターしていない (運転が下手だ)」と解釈される。

2.14. 能力 2

a. 彼は話をするのが上手だ。

Il raconte bien les histoires.

彼 話す よく 定冠詞⁵複数 話複数

b. 彼は走るのが苦手だ。

Il ne court pas bien.

彼 否定 走る 否定 よく

⁵ ここは不定冠詞の複数でもよさそうなのだが、そうしてしまうと、別な意味になってしまう。Il raconte bien des histoires. 「彼はよくほらを吹く。」

ここでは、動詞と修飾語の副詞 **bien** (うまく, よく) の組み合わせによって訳したが、「(名詞句) が, 上手だ, 苦手だ」という文であったならば, 形容詞を使うのが自然であろう。例えば, 形容詞 **bon** 「いい」 **fort** 「強い」を使って, **Je suis bon / fort en mathématique** (私は数学が得意だ) また, 反対の意味の形容詞 **mauvais** 「悪い」 **faible** 「弱い」を使って, **Je suis mauvais / faible en mathématique** (私は数学が苦手だ) ということが可能である。

2.15. 移動

a. 彼は学校に着いた。

Il arrive à l'école.

彼 到着する 前置詞 (に) 定冠詞単数 学校

b. 彼は道を渡った／横切った。

Il a traversé la rue.

彼 渡る複合過去 定冠詞単数 通り

c. 彼はあの道を通った。

Il est passé par ce chemin.

彼 通る複合過去 前置詞 (による) 指示詞 (この) 道

「移動」は基本的に自動詞と考えられるものの, **traverser** 「渡る」などの移動は, 他動詞的格枠組みを取ることが出来る。さらに, **marcher** 「歩く」, **courir** 「走る」などが距離を目的語として, 他動詞構文を取ることもある。例えば, **J'ai marché 3 km** (3 キロメートル歩く), **J'ai couru 100m** (100 メートル走る) など。また, 「階段を上る」も他動詞構文で表す。 **Je monte l'escalier.**

ただし, こうした自他の併用の可能性は, 必ずしも全ての移動動詞にあてはまるわけではない。例えば, **aller** や **passer** は, **aller / passer son chemin** 「自分の道を行く」といった一部の固定化した慣用表現を除くと, 常に自動詞構文を用いる。例えば, c で, **passer** を他無理に動詞のように用いて⁶, ***Il a passé ce chemin** とすると非文と判断される。動詞 **passer** には, 他動詞的用法があるのだが, その用法は, 「主語がある場所を通る」という事態を表すものではなく, むしろ「主語が何かを渡す」という事態を表す「対象物の移動」を問題にする授与動詞の用法になってしまう。従って, **Il m'a passé un livre** 「彼は私に一冊の本を渡した。」ということ出来る。

⁶ 助動詞を **avoir** にするのは他動詞の用法。

2.16. 感覚 1

- a. 彼はお腹を空かしている.

Il a faim.

彼 have 空腹な

- b. 彼は喉が渴いている.

Il a soif.

彼 have のどが渴いた

Avoir (持つ) と形容詞を組み合わせた慣用表現は多く, 感覚を表す動詞として日常的によく用いられる. 他にも **avoir chaud** (暑い), **avoir envie de** (欲しい), **avoir besoin de** (必要である) などがある.

2.17. 感覚 2

- a. 私は寒い.

J'ai froid.

私は have 寒い

- b. 今日は寒い.

Aujourd'hui, il fait froid.

今日, 非人称 make 寒い

「人」の感覚を表す場合には, **avoir** を用いる. 「今日は寒い」という場合は, 天候を表す場合と一緒に, 「非人称構文+faire (なす)」という構文を取る.

2.18. 社会的相互行為 1

- a. 私は彼を 手伝った/助けた.

Je l'ai aidé.

私 代名詞目的格彼を 助ける複合過去

- b. 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

Je l'ai aidé à transporter ça.

私 代名詞目的格彼を 助ける複合過去 前置詞 持ってくる これ

Aider は「人」を与格ではなくて, 直接目的語に取ることに注意したい.

2.19. 社会的相互行為 2

a. 私はその理由を彼に訊いた.

Je lui ai demandé les explications.

私 代名詞与格彼に 尋ねる複合過去 定冠詞 説明⁷

b. 私はそのことを彼に話した.

Je lui en ai parlé.

私 代名詞与格彼に そのことについて 話す複合過去

2.20. 再帰・相互

私は彼に会った.

Je l'ai rencontré.

私 代名詞目的格彼を 過去 会う

主語が複数（もしくは不定の on）の場合には、再帰、相互は代名動詞によって表すことが出来る.

駅で会おう.

On se retrouve à la gare.

不定主語 on 再帰代名詞 se 再び見つける 前置詞（で） 定冠詞 駅

⁷ 理由 la raison を使った場合には、何の理由かを言う必要がある。Je lui ai demandé la raison de sa visite. 彼がやってきた理由を尋ねた。